

# 大学共同利用機関における学術研究の推進

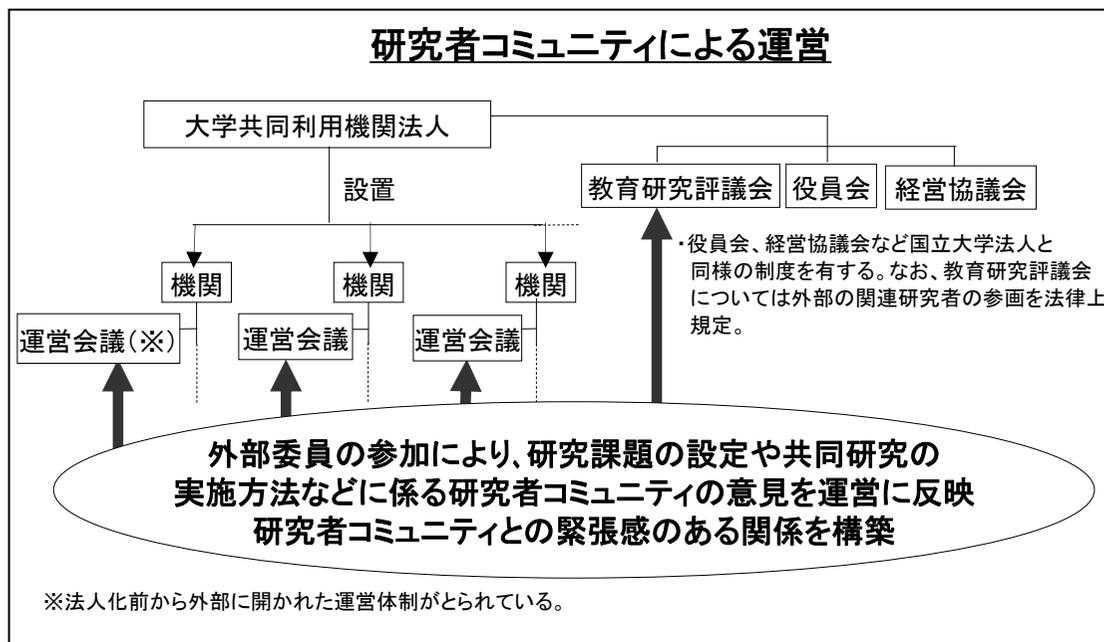
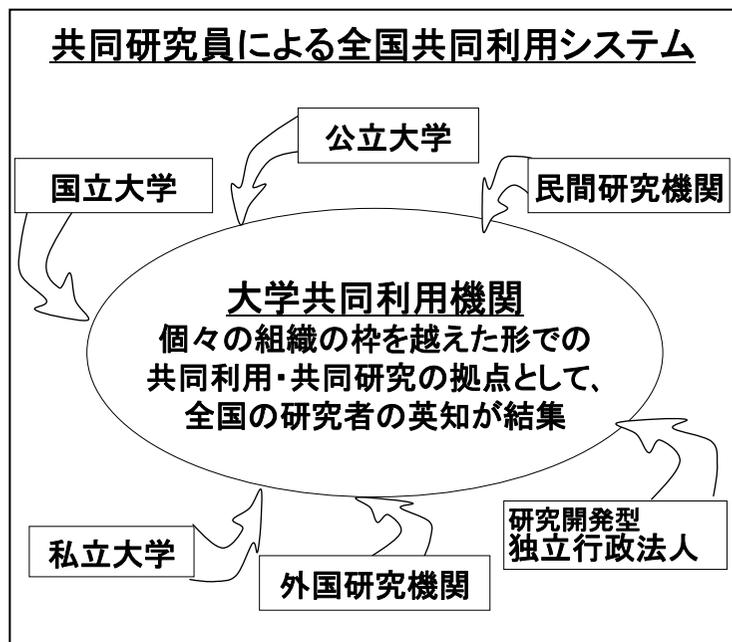
## 1. 全国共同利用システムの中核拠点

### ◎大学共同利用機関を設置

- ① 個別の大学では運転や維持が困難な施設・設備、学術資料等を共同利用。
- ② 研究者コミュニティの求めに応じて共同研究の機会を提供。
- ③ 外部の研究者が参画する運営会議等を設け、研究者コミュニティの意見を運営に反映。研究者コミュニティとの緊張感ある関係を構築。
- ④ 全国共同利用の大学附置研究所、研究施設とともに、研究拠点（ネットワーク・ハブ）としての役割。（我が国独自の全国共同利用システム）

### <大学共同利用機関の設立例>

- S46 高エネルギー物理学研究所** 我が国初の大学共同利用機関  
大型設備利用型 S46～S49 陽子加速器建設
- S47 国文学研究資料館** 学術資料収集・保存・提供型
- S61 学術情報センター**（東京大学文献情報センターの改組）  
学術情報基盤提供型 S62「SINET」運用開始
- S63 国立天文台**（東京大学東京天文台等の改組・転換）  
大型設備利用型 H3～H11 すばる建設
- H元 核融合科学研究所**（名古屋大学プラズマ研究所等の改組・転換）  
大型設備利用型 H2～H9 LHD建設
- H13 総合地球環境学研究所** 最も新しい大学共同利用機関  
共同研究型



**機能・形態** ※実際は、大型設備利用型や学術資料提供型においても共同研究が行われるなど複合的である。

○大型設備利用型・・・大型の施設・設備を有し、共同利用に供するもの  
国立天文台〔すばる〕、核融合科学研究所〔LHD〕、素粒子原子核研究所〔Bファクトリー〕、物質構造科学研究所〔PF〕

○学術資料提供型・・・学術資料を収集・保存し、共同利用に供するもの  
国立歴史民俗博物館〔歴史資料〕、国文学研究資料館〔日本文学資料〕、国際日本文化研究センター〔日本研究資料〕、国立民族学博物館〔標本資料〕、国立遺伝学研究所〔DDBJ〕

○共同研究型・・・全国の最先端の研究者が一堂に会し、共同研究あるいは研究討論を行うもの  
総合地球環境学研究所〔年間32件〕、基礎生物学研究所〔48件〕、生理学研究所〔49件〕、分子科学研究所〔107件〕、国立極地研究所〔23件〕、統計数理研究所〔97件〕 ※件数は各機関のパンフレットによる。

○学術情報基盤提供型・・・研究・教育にかかる情報基盤となる設備等につき、整備及び提供を行うもの  
国立情報学研究所〔SINET〕

## 2. 学術研究のCOE

- ①個々の研究者の自由闊達な発想と知的好奇心、探究心に根ざした研究意欲を源泉として真理の探求を目指す学術研究を推進。
- ②共同利用・共同研究を軸とした当該研究分野の卓越した研究拠点。 →我が国の当該研究分野の研究活動全体の活性化。
- ③当該研究分野における世界に対する日本の拠点。

## 3. 大学の人材養成と一体となった研究

大学院学生の受入れを行うなど、研究と教育を一体的に実施し、人材養成に貢献。